

## 社会福祉学分野

### 【学士力の考察】（下線部分を修正）

こうした前提を踏まえ、社会福祉学教育では、歴史的変遷の中で到達した人権意識とエンパワメントの視点に立ち、人と社会との間に起こる生活問題を研究・分析できる力、それを解決するための社会資源の開発、仕組みづくり、問題を発掘する力及び連携・協働する力の修得を目指している。なお、こうした実践力を涵養するために、実習・演習教育を重視していることから、それによって得られる経験知・実践知は、福祉専門職のみならず、社会の様々な分野において広く社会に貢献するために活用することが期待されている。

現在の学士課程教育において、“社会福祉を学ぶ”ということは、「学問としての社会福祉学教育」と「社会福祉専門職養成教育」の側面がある。そこで、社会福祉学教育における学士力の到達目標として、両側面を踏まえつつ、以下の五点を考察した。

### 【到達目標 1】（到達目標の解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正）

そのためにまず、現代社会の生活に係る諸問題を人間存在の原理と歴史的背景を踏まえながら分析し、克服のために果たす社会福祉や関連領域の制度・政策を理解し、社会福祉の実践とソーシャルワークの意義が概説できることを目指す。

### 【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉原論、社会福祉の歴史、社会福祉行財政論、社会福祉制度論、現代社会と社会福祉など

### 【到達目標 2】（到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正）

#### 2. 人権尊重及び社会正義の理念を確認し、社会福祉の目的・価値・倫理の概要を理解できる。

抑圧された状況や人権侵害の実態を歴史的・社会的に把握し、専門職の倫理規範に基づき、エンパワメントと権利擁護の実現に向け、グローバルな視点で支援過程について考察し、説明できることを目指す。

### 【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉原論、社会正義、人権論、社会的排除、社会的包摂、社会福祉の歴史、ソーシャルワーク論など

### 【到達目標 3】（到達目標、解説、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正）

#### 3. 相談・支援の専門職としての基本的態度を身につけ実践できること、

ここでは、援助効果に多大な影響を与える利用者と信頼関係を形成するために、実際の援助場面において、とるべき基本的な態度を身につけなければならない。そのため、相談・支援の基盤となる信頼関係の形成に重要な面接技法や受容的・共感的態度を実際の関わり場面で実現できることを目指す。

### 【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など

### 【到達目標 4】（到達目標、コア・カリキュラムのイメージの下線部分を修正）

#### 4. ソーシャルワークの専門的な理論と技術を活用できる。

### 【コア・カリキュラムのイメージ】

社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など

### 【到達目標 5】（修正が無いため省略）